

山梨県立大学 教職課程 3つの方針

理念と目的				
県内外の学校現場で活躍できる人材を育てるために、教師としての豊かな人間性と専門職性の基礎を培うことを目指す。				
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）				
育成する人物像	山梨県立大学の教職課程の使命は、教育とは何か、教育は子どもを中心とした他者個人のよき生ならびに社会の維持とその持続的な変革にいかに関与するかという問いを手放さず、みずから思考し続け、教育を反省的に実践することができる人物を養成することにある。そのため、免許種それぞれの専門的な学識と技術を身に付け、子どもをはじめとする人間の発達と環境についての理解を深めるとともに、教育に関する諸課題の解決に向けて他者と連携・協働を図ることができる人物を育成する。			
	学士力	「学士教職力」	学修成果	測定方法
①	教育本質理解	知識・技能	教育の諸本質を理解したうえで、免許種ごとの専門的な学識および人間とりわけ子どもの発達と環境に関する深く幅広い知識を習得している。	・カリキュラムマップにて示す「教育本質理解」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教育本質理解」に係る科目の成績評価
②	教育方法実践		教育目的・目標との連関において適切な教育方法を選択し、実践することができる。また、ICT（情報通信技術）など教育において活用しうる様々な技術を身に付けている。	・カリキュラムマップにて示す「教育方法実践」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教育方法実践」に係る科目の成績評価
③	教育思考展開	思考力・判断力・表現力	よりよい教育とはどのようなものか、既存の解やみずからたどり着いた解に安住せず、自身の経験を省み文脈に配慮しながら、思考し続けることができる。	・カリキュラムマップにて示す「教育思考展開」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教育思考展開」に係る科目の成績評価
④	教育判断表現		教育者の言動は子どもにとって決定的な意味を持ちうることを理解したうえで、個々の状況において何が適切な言葉であり振る舞いであるかを判断し、実際に表現することができる。	・カリキュラムマップにて示す「教育判断表現」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教育判断表現」に係る科目の成績評価
⑤	教育他者理解	主体性・多様性・協調性	多様なルーツや生い立ち、家庭環境、文化、特性等を背景に持つ個々の子どもの事情を理解・想像し、その尊厳を守る関わり方をつねに模索し、実行することができる。	・カリキュラムマップにて示す「教育他者理解」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教職他者理解」に係る科目の成績評価
⑥	教育連携協働		他者、すなわち子どもや保護者、同僚、地域住民、行政など立場を異にする者が有するそれぞれの合理性を想像・理解しながら、教育をめぐる、また教育に求められる課題の解決に向けた対話にみずから参画することができる。	・カリキュラムマップにて示す「教育連携協働」に係る科目の授業評価における学士力到達度及びポートフォリオによる自己評価 ・カリキュラムマップにて示す「教育連携協働」に係る科目の成績評価
卒業判定基準		以下の学士力を身に付け、所定の単位を習得した学生に対し、教職課程の履修を修了したことを認める。 ・教育が有する種々の本質を理解したうえで、免許種ごとの専門的な学識および人間とりわけ子どもの発達と環境に関する深く幅広い知識を習得している。 ・教育目的・目標との連関において適切な教育方法を選択し、実践することができる。また、ICT（情報通信技術）など教育において活用しうる様々な技術を身に付けている。 ・教育とは何か、教育は子どもをはじめとした他者の個人としてのよき生と社会の維持・変革にいかに関与するかといった教育の根本への問いを手放さずに思考を持続させている。 ・教育者の言動は子どもにとって決定的な意味を持ちうることを理解したうえで、個々の状況において何が適切な言葉であり振る舞いであるかを判断し、実際に表現することができる。 ・それぞれ異なったルーツや生い立ち、家庭環境、文化を背景に持つ子どもの個々の事情を理解・想像し、その尊厳を守る関わり方をつねに模索し、実行することができる。 ・子どもや保護者、同僚、地域住民、行政など立場を異にする者が有するそれぞれの合理性を想像しながら、教育をめぐる、また教育に求められる課題の解決に向けた対話にみずから参画する準備ができている。		
教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）				
＜総合性に関する方針＞ 学士教職力を修得させるために、免許種ごとの学習指導要領、文部科学省が定める教職課程コアカリキュラム、そして本学教職課程ディプロマ・ポリシーに基づき、教育に関する講義科目と演習科目を適切に組み合わせる。 ＜順次性に関する方針＞ 学年の進行に合わせて基礎・理論から応用・実践へと展開できるように配慮する。具体的には、1・2年次では「教育の基礎的理解に関する科目」と「教科に関する専門的事項」を中心に、3・4年次では「各教科の指導法」と「教育実践に関する科目」を中心に履修できるよう科目を配置する。 ＜実施に関する方針＞ 能動的で反省的な学修を促すために、演習科目で教育現場での活動を積極的に取り入れるとともに、講義科目においても知識を伝達するだけでなく教育に関する本質的な問いを発し学生の思考を触発するようにする。				
入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）				
＜求める人物像＞ 教職課程では次のような学生を求める。 ・教育に対する鋭利で持続的な問題意識を有している。 ・他者との交流によって自身の教育観が変容することを怖れない。 ・将来における教育への関与を意思している。 ＜入学前能力＞ 教職課程に履修にあたってはあらかじめ次のような能力を求める。 ・個人と社会の両面から教育を把握することができる。 ・自身の教育観を自覚し、疑うことができる。 ・教育において思考すべき事柄について問いを立てることができる。 ＜入学後能力＞ 入学前能力のさらなる向上と教職課程の学士力として定められた諸力の達成を意思することができる。 ＜評価方法＞ 中学校・高校教諭課程においては以上の諸力についての自己評価をもって選抜とする。養護教諭課程においては2年次進級時に選抜を実施する。詳細はそれぞれの課程の担当教職員に確認すること。				